

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 7 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24531064

研究課題名(和文) イスラーム宗教指導者の現代的養成と宗教間融和に関する国際比較研究

研究課題名(英文) International Comparative Study of the Modern Training System of Islamic Religious Leaders and the Promotion of Harmonious Relations among Different Religions

研究代表者

服部 美奈 (Hattori, Mina)

名古屋大学・教育学研究科(研究院)・教授

研究者番号：30298442

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、イスラーム宗教指導者の現代的養成と宗教間融和の促進を国際比較の観点から考察するものである。対象地域は、インドネシア、マレーシア、トルコ、オランダとし、インドネシアとトルコで現地調査を実施した。本研究を通して、1)各国の国民教育制度のなかに宗教指導者養成機能の一部が包摂される一方、民間の教育機関においては、主宰者の思想・指導者像、その養成スタイルに顕著な多様性がみられること、2)宗教間融和に対する宗教指導者の思想と取り組みには大きな差異が存在するが、他宗教に関する学習や他宗教への寛容等、宗教間融和の促進は徐々に進められていることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to consider the modern training system of Islamic religious leaders and the promotion of harmonious relations among different religions, from the point of view of international comparison. The object countries are Indonesia, Malaysia, Turkey, and the Netherlands. Throughout this study, we showed the findings as follows. First, the function of training the Islamic religious leaders is partly included into the national education system in these countries, even the philosophy of religious leader and the training style are remarkably varied in the private educational institutions like pondok pesantren (Islamic boarding schools in Indonesia) and madrasah (Islamic schools). Second, the promotion of harmonious relations among different religions, such as the study about other religions and the tolerance towards different religions is gradually proceeded, even the interpretations related to the religious teachings depends on Islamic religious leaders.

研究分野：比較教育学、教育人類学

キーワード：イスラーム 宗教指導者養成 宗教間融和 インドネシア トルコ マレーシア

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究の背景

本研究は、イスラーム宗教指導者の現代的養成の特質と宗教間融和の促進を国際比較の観点から考察するものである。従来の研究と異なる点は、イスラーム的価値を一般のムスリムに伝達する上で決定的に重要な役割を果たすイスラーム宗教指導者に着目し、彼らの思想を現代的課題と関連させて考察する点にある。

近年、日本におけるイスラーム研究はプロジェクトベース(たとえば人間文化研究機構プログラム「イスラーム地域研究(第1期:2006-2010、第2期:2011-2015)」など)で着実に進められ、多方面から優れた研究が蓄積されつつある。しかし管見の限り、教育学分野におけるイスラーム宗教指導者養成に関する先行研究は非常に少ない。インドネシア・マレーシアなど東南アジア地域のイスラーム教育に関する西野[1997,2001,2009,2010]、西野・服部[2007]、杉本[2002,2005a,2005b]らの研究の他、阿久津[2003]による中東地域のイスラーム教育に関する研究があるのみである。

(2) 本研究の対象地域

本研究が対象とする地域は、インドネシア、マレーシア、トルコ、オランダであり、その理由は以下の通りである。第一に、東南アジア地域が世界最大のムスリム人口を擁する地域であり、中東地域とは異なるイスラーム宗教指導者養成の現代的特徴を有することによる。インドネシアでは国立イスラーム宗教大学が伝統と革新を軸にリベラルな人材養成を行う一方で、ポンドック・プサントレンとよばれるイスラーム寄宿学校においてもカリスマ的な人間性で民衆を惹きつけるイスラーム宗教指導者が生み出されている。またマレーシアは東南アジア地域のイスラームセンターを目指し、グローバルな見地から世界で活躍する人材の養成を行っている。第二に、トルコとオランダについては、西欧諸国に多くの移民を送り出してきたトルコ人ムスリムが、その移住先のオランダ社会のなかでイスラーム宗教指導者を生み出し、マイノリティ・ムスリムの価値形成に深い影響を与えていることによる。またトルコは近年、イスラーム世界で新たな教育活動を展開するギュレン(M.Fethullah Gulen:1941-)をはじめ、新しい指導者を輩出する国として注目に値することによる。

マイノリティ・ムスリムの存在が社会問題化している西欧諸国では特に9.11事件以降、教育に焦点を当てたイスラーム研究が一時的に増加している[Hefner and Muhammad 2007; Lukens-Bull 2005 など]ものの、それらは主としてホスト国へのムスリムの社会統合という観点あるいはホスト国に害を及ぼさない「穏健な」イスラーム宗教指導者養成の構築という観点からの研究がほとんど

である。つまり、従来の研究にはイスラーム宗教指導者の人間性や思想に関する考察が欠けている。本研究が最も重視するのは、多くのムスリムを惹きつけるイスラーム宗教指導者が現代社会のなかでいかに生み出され、多元的価値の共存に必要な宗教間融和をいかなる形で促進しているかを明らかにすることにある。

2. 研究の目的

本研究は、イスラーム共同体の意思形成の思想的・精神的要となるイスラーム宗教指導者が現在の教育機構のなかでいかに養成されているのか、そしてイスラーム宗教指導者たちはイスラーム学の伝統を維持する一方で、多宗教間・多元的価値の共存に必要な宗教間融和をいかなる形で促進しているかを明らかにすることを第一の目的とする。そして、最終的には宗教間融和に果たす宗教指導者の役割に関する提言を行なうことを第二の目的とする。

3. 研究の方法

(1) 分析項目・枠組み

イスラーム宗教指導者養成の歴史的推移と現状を分析する。分析では養成形態の歴史的変化と現代的特徴、宗教指導者の思想的特徴を分類し、地域・国家間比較を行う。ここで養成形態とは、養成主体(国家か民間か)、教育機関の形態(公教育との関係)、イスラーム知の系譜などを意味する。

イスラーム宗教指導者の思想的特徴について、特に現代的要請である宗教間融和の観点から分析する。同時に、各地で影響力をもつイスラーム宗教指導者がいかなる特質によってムスリム民衆に支持されるのかを具体的に考察し、地域・国家間比較を行う。

上記の考察をもとに、各地域・国家におけるイスラーム宗教指導者の現代的養成スタイルの特徴を明らかにすると同時に、各地域・国家の共通点および相違点を明らかにする。さらに、宗教間融和に向けたイスラーム宗教指導者の役割を明らかにする。

(2) 研究遂行のプロセス

本研究は三段階からなる。第一段階ではインドネシアとマレーシアにおけるイスラーム宗教指導者の現代的養成に関する分析および現地調査を行う。同時に海外共同研究者とともに両地域の思想形成に影響力をもつイスラーム宗教指導者に関する情報収集および宗教指導者へのインタビューを実施し、宗教間融和に果たす宗教指導者の役割を考察する。

第二段階ではトルコとオランダを対象地域とし、トルコ系イスラーム宗教指導者の現代的養成に関する分析および現地調査を

施する。また第一段階と同様、現在、イスラーム共同体において影響力をもつイスラーム宗教指導者に関する情報収集および宗教指導者へのインタビューを行う。

第三段階では国際シンポジウムを開催（開催地は日本）する。国際シンポジウムでは、専門家およびイスラーム宗教指導者を招聘し、イスラーム宗教指導者の現代的養成、宗教間融和における宗教指導者の役割に関する情報を共有し、国際比較の観点から考察を行う。

(3)活動概要

各国の海外共同研究者とともに研究体制をつくり、前述した三段階の研究を遂行する。平成 24 年度は、分析項目・枠組みにもとづき、インドネシア・マレーシアにおけるイスラーム宗教指導者の現代的養成のあり方とその特徴を分析し、現地調査を行う。平成 25 年度 - 26 年度は、トルコ・オランダにおけるイスラーム宗教指導者の現代的養成および宗教間融和に果たす役割に関する文献収集および現地調査（トルコ）を行い、その上で分析項目・枠組みにしたがい対象地域の比較分析を行う。最終年度の平成 27 年度は、研究者を招聘して国際シンポジウムを開催し、研究課題に関する議論を深め、最終成果をまとめる。

4. 研究成果

(1) 各年度の研究成果

初年度の平成 24 年度は、インドネシアとマレーシアにおけるイスラーム宗教指導者の現代的養成に関する分析、およびインドネシアでの現地調査を実施した。現地調査にあたっては、海外共同研究者とともに、イスラーム宗教指導者を輩出している教育機関やイスラーム組織、さらに当該社会に深い思想的影響を与えているイスラーム宗教指導者を選定した。分析項目・枠組みは以下の 2 点である。イスラーム宗教指導者養成の歴史的推移と現状を分析する。分析では養成形態の歴史的変化と現代の特徴、宗教指導者の思想的特徴を分類した。イスラーム宗教指導者の思想的特徴について、特に現代的要請である宗教間融和の観点から分析した。同時に、各地で影響力をもつイスラーム宗教指導者がいかなる特質によってムスリム民衆に支持されるのかを具体的に考察した。現地調査を行ったインドネシアでは、重点的に西ジャワ州のイスラーム寄宿学校（プサントレン）において調査を実施した。その結果、現代のイスラーム宗教指導者養成は非常に多様化しており、カリキュラムや指導者観にも顕著な差異がみられることが明らかになった。一方、指導者の宗教間融和に対する考え方も多様であったが、概して宗教間融和を促進するための教育実践は限定的なものであった。

平成 25 年度は、主に 2 つの研究を実施した。第一に、継続してインドネシアを中心に

イスラーム宗教指導者の現代的養成に関する分析・現地調査を実施した。現地調査は、南カリマンタン州と中部ジャワ州のイスラーム寄宿学校（プサントレン）で実施した。第二に、比較対象としてトルコとオランダにおけるイスラーム宗教指導者養成に関する文献収集を行った。特にトルコはギュレン（M.Fethullah Gulen:1941-）をはじめ、新しい指導者を輩出する国として注目に値し、その影響力はオランダにおいても確認された。上述の考察の結果、トルコのギュレンに影響を受けた「ヒズメット（奉仕）」運動は、新しいタイプの宗教指導者を輩出し、世界各地に教育機関を設立すると同時に、その活動のなかで宗教間融和のための教育実践を積極的に行っていることが明らかになった。

平成 26 年度は、主に 2 つの研究を実施した。第一に、継続してインドネシアを中心にイスラーム宗教指導者の現代的養成に関する分析を実施した。第二に、東南アジアの比較対象として、トルコにおけるイスラーム宗教指導者養成に関する文献収集を継続して実施し、現地調査を実施した。現地調査では、宗務庁管轄のクルアーン学校、教育省管轄のイマム・ハティブ高校、ネクメティン・エルバカン大学神学部、ヒズメット（奉仕）運動関連機関等を訪問し、本課題に関する多くの知見を得た。

最終年度の平成 27 年度は、マレーシアにおいて補足的な現地調査を実施すると同時に、トルコおよび日本国内の研究者を各地域の専門家として招聘し、イスラーム宗教指導者の現代的養成と宗教間融和に関する国際シンポジウムを名古屋大学で開催した。同シンポジウムを通して、イスラーム指導者養成・宗教間融和に関する各国の改革動向と課題を共有することが可能となった。

(2) 本研究の成果

本研究の成果の概要は以下の通りである。第一に、現代のイスラーム宗教指導者養成の特徴として、各国とも国民教育制度のなかに包摂される傾向にあり、政府がイスラーム指導者養成を含むイスラーム教育に一定の積極的な関わりを持っていること、一方で、特に民間の教育機関においては、主宰者の思想・指導者像に顕著な差異がみられることが明らかになった。

第二に、宗教間融和に関しては、各国の政府は価値多元化社会における宗教間融和の促進と宗教指導者が果たす役割の重要性を認識しており、教育機関を通して宗教間融和を図る仕組みを模索し、一定の成果を挙げていること、一方で、特に民間の教育機関において、イスラーム指導者の宗教間融和に対する思想と取り組みは多様であるために一般化は難しく、差異が顕著であることが明らかになった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

服部美奈, 「20世紀初頭のインドネシア・イスラーム社会における近代女子教育の形成 - 「正典」をめぐる解釈とコミュニティのゆらぎ・再編 - 」歴史学研究会編『歴史学研究』No.940(2016年1月号), pp.13-23. (2016年1月15日発行) 査読無

服部美奈, 西野節男, 「グローバル化する世界における教育と宗教者の役割 - シンポジウムでの議論をふまえて - (特集2 公開シンポジウム グローバル化する世界における教育と宗教者の役割)」日本比較教育学会編『比較教育学研究』第50号, 2015年2月, pp.191-200. 査読無

服部美奈, 「オランダ植民地期インドネシアにおける学校体育とスカウト運動 - 1920年-1930年代」服部美奈編著『アジアのムスリムと近代(2) - 1920-1930年代の世界情勢とマレー世界』SIAS Working Paper Series 22 (NIHU Program Islamic Area Studies), 上智大学アジア文化研究所・イスラーム研究センター, 2014年3月, pp.45-62. 査読無

服部美奈, 西野節男, 「現代インドネシアにおけるイスラーム指導者養成の課題 - 西ジャワのプサントレンの事例から」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要(教育科学)』第60巻第2号, 2014年3月, pp.85-104. 査読無

Hattori Mina, “Strengthening National Identity and Globalization through Education Dilemma and Challenges of the Maldives as a Small Nation, in Hattori Mina (ed.) *Strengthening National Identity through Language, Literature, and History*, International Seminar Proceeding, Faculty of Humanities, Diponegoro University, 2014.2, pp.17-31. 査読無

服部美奈, 「「イスラームと女性」研究の新動向 - 東南アジア・インドネシアから - (海外の新潮流)」, ジェンダー史学会編『ジェンダー史学』, 第8号(2012), 2012年10月, 97 - 104頁. 査読無

Hattori Mina, “Tradition of *Kitab* Learning at Pondok Pesantren in Indonesia: Focus on its Learning Style”, *Comparative Study of Southeast Asian Kitabs: Papers of the Workshop held at Sophia University, Tokyo, Japan on October 23, 2011 (NIHU Program Islamic Area Studies SIAS Working Paper Series 14)*, Sugahara Yumi (ed.), Institute of Asian Cultures- Center for Islamic Studies,

Sophia University, 2012.5, pp.47-70. 査読無

服部美奈, 「『ジャウハラ Djauharah』創刊号(1923)巻頭言 - Berguna Untuk Bangsa Perempuan」(新井和広と共著), 『ジャウイ文字でつながる東南アジア・イスラーム世界 - ジャウイ定期刊行物創刊号巻頭言 - (NIHU Program Islamic Area Studies SIAS Working Paper Series 12)』, 新井和広編著, 上智大学アジア文化研究所・イスラーム研究センター, 2012年5月, 61 - 83頁. 査読無

[学会発表](計15件)

服部美奈, 西野節男, 「トルコにおける宗教指導者養成 - 政府による取り組みと「ヒズメット(奉仕)」運動の展開」, 日本比較教育学会第51回大会, 宇都宮大学, 2015年6月13日.

森下稔, 山田肖子, 服部美奈, 奥田久春, 「モルディブの教育に関する複合的アプローチによる比較教育学的研究 - 国際試験・カリキュラム・イスラーム・市民性」, 日本教育学会第73回大会, 九州大学, 2014年8月23日

服部美奈, 「公開シンポジウム趣旨説明」(公開シンポジウム「グローバル化する社会における教育と宗教者の役割」, 日本比較教育学会第50回大会, 名古屋大学, 2014年7月12日

服部美奈, 「イスラームと健康をめぐる議論 - 1920~30年代の雑誌分析から」南山大学外国語学部主催, アジア・太平洋研究センター/ 東南アジア学会中部例会共催セミナー「世界史の中のインドネシアを考える」(第3セッション「ムスリムと近代(1920 - 1930年代)」), 2014年3月28日.

Hattori Mina, “Strengthening National Identity and Globalization through Education - Dilemma and Challenges of the Maldives as a Small Nation”, International Seminar “Strengthening National Identity through Literature, Language, and History”, organized by Faculty of Humanities, Diponegoro University and Graduate School of Education and Human Development, Nagoya University, Diponegoro University, September 19, 2013.

Hattori Mina, “Citizenship Education in Indonesia in the Context of ASEAN Community,” International Seminar “Education as Media of Socialization and Enculturation of Local Culture”, organized by Graduate School of Education and Human Development, Nagoya University and Asia Research Center, Faculty of Humanities,

Diponegoro University, Nagoya University,
June 25, 2013.

服部美奈, 西野節男, 「現代インドネシアにおけるイスラーム指導者養成の課題 - 西ジャワのプサントレンの事例から - 」, 日本比較教育学会第 49 回大会, 上智大学, 2013 年 7 月 7 日

服部美奈, 「インドネシア・西スマトラのまちの「過去」 - 3 人のミナンカバウ人の生活誌から (1890 - 1930 年代)」, ラウンドテーブル 5 「東南アジア地域研究と比較教育学 - まちの「過去」から考える(2)」, 日本比較教育学会第 49 回大会, 上智大学, 2013 年 7 月 5 日

服部美奈, 「インドネシアの通過儀礼にみるイスラームと地域文化の融合 - その教育機能とジェンダーに着目して」中部人類学談話会第 216 回例会 (テーマ: イスラームとジェンダー), 名古屋大学文学研究科, 2013 年 4 月 6 日 .

Hattori Mina, "Education Reform toward a Cooperative Hybrid System: The Role of Muhammadiyah as a Community-based Educational Institution (Panel 3. Education)", International Research Conference on Muhammadiyah (IRCM 2012), Universitas Muhammadiyah Malang, Indonesia, 29 Nov 2012.

服部美奈, 「1920~30 年代インドネシアにおける西洋的身体観とイスラーム: 女子体操とガールスカウト運動をめぐる議論」人間文化研究機構 NIHU プログラム・イスラーム地域研究上智拠点「東南アジア・ムスリムと近代」研究班 ワークショップ「アジアのムスリムと近代: 1930 年代を中心に」, 上智大学, 2012 年 11 月 11 日

森下稔, 服部美奈, 奥田久春, 山田肖子「モルディブにおける学校教育の展開と今日的課題」, 日本比較教育学会第 47 回大会, 九州大学, 2012 年 6 月 16 日

[図書] (計 9 件)

Rosnani Hashim and Mina Hattori (Eds.), *Crucial Issues and Reform in Muslim Higher Education*, Kuala Lumpur: IUM Press, 2015.

服部美奈, 「11 章 「諸外国における教育の制度と動向」, 第 4 節 「アジアにおける教育制度と改革動向」, 田中亨胤・越後哲治・中島千恵編著, 『未来に生きる教育学 - 変動期の教育の構築』, 164 - 170 頁, あいり出版, 2015 年 9 月

服部美奈, 『ムスリマを育てる - インドネ

シアの女子教育』(イスラームを知る 20), 服部美奈 (単著), 山川出版社, 2015 年 8 月, (全 106 頁)

服部美奈, 「第 15 章 教育のグローバル化は進んでいるか」, 早川操・伊藤彰浩編, 『教育と学びの原理 - 変動する社会と向き合うために』, 208 - 220 頁, 名古屋大学出版会, 2015 年 7 月

服部美奈, 「第 9 章 インドネシア - グローバル時代を生き抜く国民教育の見取り図」, 馬越徹, 大塚豊編, 『アジアの中等教育改革』, 221 頁 - 250 頁, 東信堂, 2013 年 4 月

森下稔, 鴨川明子, 服部美奈, 「第 9 章 定性的手法を用いた比較教育学研究」, 山田肖子, 森下稔編, 『比較教育学の地平を拓く - 多様な学問観と知の共働』, 209 - 223 頁, 東信堂, 2013 年 2 月

服部美奈, 「第 25 章 学校教育 - 地域の自立性と多様性を保障する教育へ」, 「コラム いまどきの学校事情」, 村井吉敬, 佐伯奈津子, 間瀬朋子編, 『現代インドネシアを知るための 60 章 (エリア・スタディーズ 113)』, 152 - 156 頁, 178 - 180 頁, 明石書店, 2013 年 1 月 .

服部美奈, 「第 7 章 インドネシア - 高等教育の巨大市場と人材育成戦略 - 」, 北村友人・杉村美紀共編, 『激動するアジアの大学改革 - グローバル人材を育成するために - (上智大学新書 02)』, 115 - 129 頁, 上智大学出版, 2012 年 9 月 .

服部美奈, ムルニ・ラムリ, 「第 12 章 インドネシア - 勲章のない英雄から専門職としての教員へ」, 服部美奈, 「終章 アジアの教員をとりまく状況」, 小川佳万・服部美奈編著 『アジアの教員 - 変貌する役割と専門職への挑戦 - 』, 279 - 308 頁, 309 - 321 頁, ジアース教育新社, 2012 年 5 月 .

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

服部 美奈 (HATTORI, Mina)
名古屋大学・大学院教育発達科学研究科・教授
研究者番号: 3 0 2 9 8 4 4 2

(2) 研究分担者

西野 節男 (NISHINO, Setsuo)
名古屋大学・大学院教育発達科学研究科・教授
研究者番号: 1 0 1 7 2 6 7 8